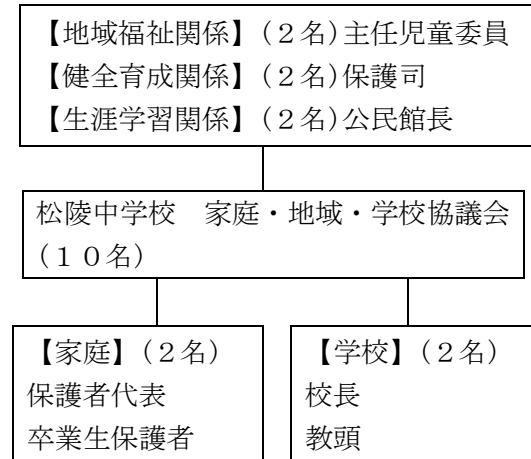


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



※地域コーディネーター(1名)・松原公民館長

(2) 協議会の内容

- 第1回…5月31日(金)
趣旨・活動内容の説明
学校経営方針の説明と生徒の課題
家庭・地域・学校の連携について
- 第2回…11月8日(金)
中間評価
地域や伝統行事への貢献の在り方
地域との交流活動の在り方
- 第3回…2月19日(水)
学校評価について
今年度の総括と次年度の活動計画

(3) 協議会における成果と課題

- ふるさと学習における公民館や地域人材の活用と開発
松原公民館主催の文化祭では、茶華道部が招かれ、地域の方々にお茶を振る舞った。また、「敦賀西町の綱引き伝承協議会」のもと、生徒会が中心となり「夷子大黒綱引き」の大綱(玉づくり)に参加した。
- 生徒主体による地域貢献活動の実践
2年生が「気比の松原100年構想委員会」、森林管理署と協力しての「気比の松原」での松葉かき、1年生が地元の方や他団体と協力して「水島」の清掃活動を行い、ふるさとの自然環境を守ろうとする態度とボランティア精神の涵養を図った。
- 校区小学校および地域内の高等学校との連携
校区内の小学校とは、各校のオープンスクールや小中接続事業を通して、教員、生徒とも、交流、連携を図ることができた。地域内の高等学校とは、部活動を通じた交流が多かったが、特定の部活動に限られるため、さらに広い交流を図っていかねばならないと考える。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・総合的な学習の時間を中心とした学習を計画的に行い、ふるさとに対する興味・関心を高め、地域の実態を知り、地域に貢献したいという意欲を喚起させる。
- ・自然や伝統を守ろうとする地域の方々や団体から、松陵中校区にある自然や伝統などのすばらしさを教えていただくことで、ふるさとについての愛着を深化させ、ふるさとを大切にしたいという気持ちを持たせる。
- ・学習のまとめとして発表の機会を設けることにより、生徒に学んだことを人に伝える喜びを実感させる。

(2) 活動の実際

①「気比の松原」松葉かき（11月、2学年）

- ・本校の前に位置する日本三大松原の一つである「気比の松原」の現状課題等について、「気比の松原100年構想委員会」、森林管理署からの話を通して理解する。
- ・生徒が把握した「気比の松原」が抱えるいくつかの課題を解決するための体験学習（松葉かき）を実施する。
- ・調査を通して学んだこと、その解決に向けて実際に行った体験学習などをまとめ、学校内外に発信する。



②「水島」清掃（7月、1学年）

- ・校区内の「水島」についての現状、課題等について、地元の方や関係者などからの話を通して理解する。
- ・生徒が把握した「水島」が抱えるいくつかの課題を解決するための体験学習を実施する。
- ・調査を通して学んだこと、その解決に向けて実際に行った体験学習などをまとめ、学校内外に発信する。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

①地域コーディネーター（1名）

松原公民館館長

②地域コーディネーターの活動概要

松原地区文化祭での学校との連携

(4) 特に工夫した事項

- ・外部の指導者からの話を聴くことが中心とならないように、生徒が直接体験する時間を多く取るようにした。
- ・ふるさとの自然の現状維持だけにとどまらず、これから先について主体的な立場で考えるようにした。
- ・今回の学習から、ふるさとについて次に学びたいことを考えさせ、来年度につなげる準備を行った。

(5) 成果と課題

- ・活動後の生徒の感想として、「自分たちの活動によって、校区の自然を守ることができてうれしかった。」「知らないことがわかって楽しかった。」などといった感想が見られた。今回の学習の機会によって、ふるさとについて深く学ぶことができた。
- ・校区には、まだまだ多くの自然や文化・伝統が存在している。地元の方や他の団体と協力して、学校全体の学習計画を見直し、系統的・効率的なふるさと学習の確立を進めていく必要がある。

(様式 3)